

漢族の婚姻儀礼の持続と変化に関する一考察 —福建省福州市の事例から—

A study of change and continuity in Han-Chinese marriage ritual :A case from Fuzhou city, Fujian.

発表者：兼城糸絵 (Itoe KANESHIRO)、博士後期課程 1 年、環境社会人類学分野

指導教官：瀬川昌久 連絡先：itokane@hotmail.com (415 研究室)

キーワード：福建省、漢族、婚姻儀礼、共産党、社会変化

中国は民国期から現代に至るまで急激な社会変化を経験してきた。特に 1949 年の中華人民共和国成立以降政権を握った共産党は、中国社会に根強く存在した伝統的諸制度を批判し、社会主義的近代化を目指すべく様々な政策を実行した。婚姻に関して言えば、1950 年に制定された婚姻法を皮切りにいくつかの改革が実施された。特に「童養媳」のような婚姻形態や煩瑣な手順かつ膨大な費用を要する婚姻儀礼は政府によって質素化・簡略化が強く求められた。改革開放期に至ると再びかつてのような盛大な婚姻儀礼が行われるようになり、現在ではレストランやホテルのホールを貸し切って披露宴を行うなどその形態も多様化している様子がみられる。

このような状況を踏まえ、本発表においては福建省福州市において行われた婚姻儀礼を事例に、現在行われている婚姻儀礼と 1949 年以前の事例とを比較し、そこにどのような持続あるいは変化がみられるのかについて簡単な検討を行いたい。そこでまず『福州市誌』や福州をフィールドにして書かれた民族誌の情報を元に伝統的な婚姻儀礼を示し、現代(2006 年)に行われた婚姻儀礼と適宜比較し、考察していく。

福州市における伝統的な婚姻儀礼は「六礼」と呼ばれる漢族社会全体でみられるプロセスに従って行われていることがわかる。現代の婚姻儀礼においても、一部欠落がみられるものの、ほぼ同様な手順でもって行われていた。特に、新婦の出家、新郎の家で行う儀礼、宴会は重要な要素であることがみえてくる。このことから、婚姻儀礼は少なくとも画一的な構造を維持してきたと考えられる。

儀礼の構造が持続している一方で、儀礼の過程での諸行為に注目してみると、いくつかの変化がみられることがわかる。例えば、儀礼の最中に発せられた祝福の言葉に注目してみると、かつてのような多産を望む言葉の代わりに双子を望む言葉が新たに付け加えられている。このような変化の背景には「一人っ子政策」との関わりが予想されよう。また、発表者が調査した福州市においては結婚する当人や家族が置かれている経済的状況によって婚姻儀礼の規模に差異がみられ、それも社会的ステータスの表象ツールのひとつとなっている様子も伺える。

以上の分析から、民国期から現在にいたるまでの婚姻儀礼をみてみると、一部の簡素化や省略がみられるものの、その手順に大きな変化はみられない。その一方で、儀礼の過程において表現された価値観には変化がみられ、それは社会・経済的状況の変化と密接な関わりをもつものと考えられる。